
私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか

銀河

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか

【Nコード】

N4988BA

【作者名】

銀河

【あらすじ】

このエッセイは、同人誌・図書発行時には随時削除する可能性があります。ご了承ください。

はじめに

はじめに

このプロジェクトを始動するにあたり、私は長い間自問自答してきました。

私が気がついたことを、世に問うても良いのか。

私の気がついたことはしごく単純なことです。

「私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか」

この問いに対する答え自体は、すでに古今東西多数の図書に記されていることであり、私の発見ではありません。上記問いが重要なのです。この問いに気がついた時、私は長年の疑問がすべて氷解しました。もしかしたら、この問い自体もすでに誰かが発見していることかもしれません。ですからこの問いも私の発見であるなどとはよもや主張しますまい。

一見すると、別段何の変哲もない、当たり前の問いのように見える方も多いでしょう。この問いに即答できる方もおられることでしょう。ですから、私がこの問いを大上段に掲げて、何か書物を書くことに何の意味があるのか。

それは、この問いに気が付かないが故に、悩み、苦しんでおられる多数の人たちを、想像できるからです。

私自身、いわゆる宗教書や、スピリチュアルの図書に、救済を求めてきました。それらの図書から受けた恩恵は大きなものです。ですから、救済を求める方が一人でもいるなら、恩返しの意味もあつて、この書物を世に問うことにしました。

いや、回りくどい言い方はやめて、単純に表現するなら、

「世に問えと、私の魂が囁く」

からです。

二〇一二年一月三日 東京 秋葉原 STARBUCKS に
て

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4988ba/>

私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか

2012年1月13日21時47分発行